



巡礼その三十五 福島

2006年8月4日

4時半起床、5時東北自動車道で福島へ。悲しいことに早起きしたが首都高で事故が発生し、1時間動かなかった。安達太良SAで朝食バイキングを食べる。種類も豊富で美味しい。今回の旅は磨崖仏と福島独得の阿弥陀来迎供養塔を見学すること、そして不動湯温泉に泊まることである。阿武隈PAでコーヒーを飲み、矢吹ICでおりて滝八幡磨崖仏（舘山）へ向かうが迷う。斎場の人に親切に教えてもらった。病院の入り口から裏へ抜け隈戸川の遊歩道の岩に三十三観音が彫られている。とても良いロケーションである。福島には江戸時代の三十三観音磨崖仏が多い。この時代、西国三十三観音の巡りの信仰のが全国的に流行したため、他の地域が石仏であるのに対し磨崖仏が多い。次の長慶寺阿弥陀来迎供養塔は玉川村役場で道を聞き、寺はわかったが境内を探しまわっても見つからない。住職に聞くと山門がありその横に安置されているという。前の水田ではラジコンのヘリコプターを使って農薬の空中散布を行っていた。和田磨崖仏はすぐにわかった。薄暗い森の中にありすぐに子猫が7、8匹まつわりついてくる。横穴古墳群を利用してつくられた石窟仏で制作は鎌倉時代であるが剥離風化がひどい。猫が車の下に入り込み轆きそうになるので妻が鯉節のふりかけをあげている間に出発。守山磨崖仏（大供）は近くの人も、小学校の人もわからず、郵便局ではじめてわかった。小川の脇の岩肌に三十三観音が彫ってある。蜘蛛の巣がものすごかった。下宿阿弥陀来迎供養塔も迷った。須賀川駅の近くの町中にあるが、工事のため道が通行止めで間違った方向へ行ってしまった。駅まで引き返し交番で聞いてやっとたどり着いた。ここは道路から少し奥まっております、廃寺のため表札も出ていないのでよけいわかりにくい。屋根もないのに奇跡的に保存状態の良い3基が並んでいる。とても素晴らしい。長命寺阿弥陀来迎供養塔は水田の前にあり、鉄柵があるので写真が撮りにくい。陽泉寺の供養塔につぐ古いもので隣にも小さな供養塔がある。舘ヶ岡磨崖仏も水

田の横の岩に彫られ、とても保存状態が良く色彩も一部残っている。残念なことには鼻が修復されている。ちかくに梵字が刻まれている大きな岩がある。ここに清水が湧いているので顔を洗う。東北自動車道に入り二本松 IC へ行く。1 時になったので安達太良 SA でホットドックとキュウリの漬け物（一本割り箸に刺してある）を食べる。漬け物は絶品である。妻はラーメンを食べるがこれも美味しかった。二本松の安達ヶ原は能、歌舞伎などの「黒塚」で有名で、観世寺境内にある。人を喰らっていたという安達ヶ原の鬼婆の話である。ここには巨岩が沢山あり、ここに三十三観音を彫った安達ヶ原岩屋磨崖仏がある。資料館で鬼女伝説にまつわる展示物などを見て木製の鬼女（800 円）を買う。ここから今夜の宿秘湯不動湯温泉に行く。今回は 2 泊する。ここは 2 回目で土湯温泉から更に奥に入った山の中にあり、冬は閉鎖される。これだけひなびた温泉も珍しい。前は迷ってなかなか着けなかったが今回はスムーズにいった。山の急斜面の猫の額みたいな所に立っている。部屋は 2 つ空いており、前回の隣の部屋にした。ここには白濁した硫黄のお湯と透明な単純泉のお湯と鉄分の多い茶色のお湯が源泉掛け流しされている。まずはとても長い階段をおりて溪流の脇にある露天風呂へ行く。これだけ自然に囲まれた露天も珍しい。硫黄泉で 2 人入るといっぱいである。最高の雰囲気であるが、昼間はアブが多い。階段を登って帰るのが大変で途中にある檜風呂の単純泉へ。2 方向に大きな窓があるので開け放つととても良い風が入り極楽である。ここで寝ころがり、出たり入ったりする。玄関で清水に浸かった冷え冷えのラムネを飲む。部屋でうとうととしていると夕食である。鮎、山菜の天婦羅、鯉のあらい、鯉こく、米沢牛の鍋である。露天風呂で星空を眺め、鉄分の多い茶色のお風呂へ行き 9 時半に寝る。

8月5日

4 時に起床、部屋から一番近い茶色の湯へ行き、また寝る。7 時に檜風呂へ行き窓を開けて寝ころがる。シャケの朝食を食べ陽泉寺へ行く。今回は電話を入れてお堂の鍵を開けてもらう。福島で一番古い供養塔で保存状態もとても良い。重要文化財である。山の上の高原にある高湯温泉に行き共同浴場（250 円）にはいる。とても濃い硫黄泉で露天と半露天があり、もちろん源泉掛け流しである。ここでも寝ころがり、青空を眺めているととても気持ちのよい高原の風が吹いてくる。吾妻スカイラインで土湯にもどる。この有料道路は 1600m の

とても高い所を通り、まるでチベットの様な風景の所もある。「道の駅土湯」でからし味噌を買い、キュウリはあるかと訪ねたら、ただで5本くれた。お昼は土湯温泉街を散策する。日本中温泉街はどこもさびれているがここも人がいない。路地裏の食堂でラーメンと餃子を食べる。結構いける。ここに薬屋はなく、お土産物屋が併用している。不動湯に戻り露天へ行ってアブに刺される。夕食まで風呂三昧する。夕食は鮎、天婦羅、雉子鍋である。また風呂三昧して9時に寝る。

8月6日

4時半に起きて朝から風呂三昧、また寝て8時朝食、8時半出発。おかみさんが茶煎餅のお土産をくれた。途中湧き水で車を洗い相馬へ向かう。福島を過ぎ信夫文知手摺へ寄り、途中でソフトクリームを食べる。相馬までは遠い。道は一車線で景色はとても良い。いわゆる中通りから浜通りへいく。南相馬の塩崎岩屋磨崖仏はわかりにくく、農家のおじさんに聞いて水田の一番奥まった所へ行く。そこにお堂があり、中の岩に彫られているが、暗くて良く見えない上に崩壊がひどい。泉沢磨崖仏はここから近い。15分ほどで立派な駐車場に着く。3つの窟があり、初めに登った阿弥陀堂にはなにもない。次の薬師堂は前室があり入ると自動で電気がつく。保存状態は悪いが大分に匹敵する立派な像が6体彫られている。観音堂は少し離れており、千手観音磨崖仏は首から下はなくなっているが、何とか千手観音の頭と手がわかる。上部の光背に小さな仏像が沢山彫られて色彩も残っている。当時は9mをこす壮大な千手観音で人々を圧倒したことであろう。海側の道は気持ちが良い。お昼は「座座」という焼肉店があったので、980円のランチをたのんだ。タン、豚とロ、ロース、カルビ、サラダ、わかめスープ、お新香、ご飯。杏仁豆腐でとても美味しい。98円でドリンクバーである。恐れ入りました。常磐道の終点から入り、いわき湯本ICで出る。一車線で車はほとんどみかけない。住吉磨崖仏も迷いながら金剛寺の墓地まで何とか行く。墓地の中を探すが何も無い。住職の家で聞くと2番目の階段の所にあるという。もう一度探すと藪の中に窟があり、中に入るとボロボロの仏像があった。東京にもどると常磐道は渋滞していた。SAでソーセージ入りのさつま揚げを買う。これが美味しかった。首都高も渋滞しているので向島でおりて一般道で帰る。